

水の大切さを次世代に伝える 新作能「水の輪」—子ども達と作る能

公益財団法人 山本能楽堂

『ユネスコ世界無形遺産である能楽により「水を大切にする気持ち」で世界を一つに繋げ、次代へと「美しく豊かな水」を伝えていきたい』

1. はじめに—山本能楽堂について

山本能楽堂は、昭和2年に山本家10代目・山本博之によって創設された、今や全国でも珍しい木造三階建ての能楽堂である。太閤秀吉によって築かれた大阪城内の武家屋敷エリアに当時の町割のまま位置し、建物の西側には熊野街道が通っており、今も昔も大勢の人が行き交っている。大阪がかつて「大大阪」と呼ばれ、活気に溢れ史上空前の賑わいを見せた時代に、山本能楽堂は船場の旦那衆が中心となって、船場に程近い谷町に「文化的な社交場」を作ることを目的に建てられた。能楽は、秀吉がそれまで「観るだけであった能」に「自ら舞って楽しむ」という喜びを見いだして以来、大阪の街に「嗜む芸能」として根付いてきた文化であり、創設以降、山本能楽堂を中心として大勢の人々が能楽を通して交流を深めてきた。

山本能楽堂では創設以来、約90年近く能の普及と継承につとめてきたが、現代社会において趣味が多様化し、能が次第に「敷居が高い芸能」「高尚そうだが自分とは関係のない、たいくつなもの」となってしまい、ファン層が減少していることに強い危機感を感じていた。そこで平成16年に大阪で「世界陸上」の前夜祭がおこなわれたのをきっかけに、公共空間での「ストリートライブ能」公演に取り組み始めた。これは、能楽堂（劇場）にチケットを買って能を見に来て下さるお客様を待っているのではなく、自分たちから公共空間に飛び込んで、その場に偶然居合わせた不特定多数の方に、偶発的に能をご覧頂き、能の魅力を知り、感じて頂くことを目的としたアウトリーチ活動である。これまでに、大阪府内の約80カ所で公演を開催し続け、一般の人々を対象とした能の普及に大きな手応えを感じていた。新作能「水の輪」は、この公共空間でのストリート



ライブ能の集大成ともいえる活動であり、これまでに、老若男女を問わずあらゆる世代の方に能の魅力を通して「水の大切さ」を伝えてきた。

2. 水の都・大阪から

大阪は世界的にも希な「口の字型」の水の回廊を持つ水の都である。難波津の時代から始まり、「天下の台所」と呼ばれた江戸時代、そして「東洋のマンチェスター」と称し世界一の繁栄を遂げた近代に至るまで、水の恩恵を受け大阪の街は育まれてきた。しかし経済の衰退とともに「水の大切さ」は忘れ去られ、川の水は濁み悪臭さえ漂っていた。いつしか人々は、川に面した窓は閉め切り、川に背を向け、汚れた水を感じないように暮らし始めた。しかし、今一度、大阪を水の都として再生する取り

組みが官民一体となって開始され、地元団体や多くの市民が水の都・大阪の再生を夢描き、様々な活動にとりこんできた。山本能楽堂も当時大阪商工会議所が事務局をつとめていた「東横堀川水辺再生協議会（eーよこ会）」に参加し、地元の皆様と一緒に、東横堀川の水辺の活性化に取り組み、様々な全国の水辺再生の事例について学ぶ機会を与えてもらった。そのような活動を通して、日本で約700年間培われてきた能の魅力を通じて「水の大切さ」を広く周知することができないかと漠然と模索を始めていた。そして、2009年8月から10月の52日間、シンボルイベントとして「水都大阪2009」が開催されることになり、サントリーホールディングス株式会社取締役副会長の鳥井信吾様よりご発案頂き、宗教学者・山折哲雄先生にご監修いただき、新作能「水の輪」を制作・初演させていただくことになった。

3. 新作能「水の輪」について

■水都大阪の再生を通して「水を大切にしたい気持ち」を強くアピール

新作能「水の輪」は、水の浄化をテーマに環境問題について考える能である。汚れてしまった川の水を、子ども達が扮する水鳥達が美しく掃除し水が清められることで、きれいな水にしか住むことのできない水の神様が現れ、澄んだ水を喜び大阪の繁栄を言祝ぐという物語である。宗教学者の山折哲雄先生にご監修いただき、平成21年に「水都大阪2009」の最終日を彩るイベントとして、大阪の新しい川の拠点として整備された八軒家浜の船着場で制作・初演した。テレビ・新聞等のメディアでも多数取り上げられ、当日は約3,000人を超える皆様にご鑑賞頂き、「水の大切さ」を周知し、「水」によって繁栄がもたらされてきた大阪の歴史を伝え、「水都大阪」としての新しい街の魅力を発信することができた。

■現代アートと古典芸能の融合により「水を大切にしたい気持ち」を芸術を通してより深く表現

「水の輪」は、世阿弥から続く観世流能楽の伝統に基づいて制作された新作能である。「古くさい芸能」と思われがちな能楽に、現代美術家・井上信太氏による新しく美しい舞台美術を加えることで、約700年の伝統を持つ能楽と、時代の最先端の思想を内包する現代アートが融合し、誰にでも親しめる美しい世界を表現し、能を「わからないが崇高なもの」ではなく「誰にでも楽しんでもらえるもの」へと発想を転換し制作した。世界最古の仮面劇に現代の最先端の思想を内包する現代美術の

エッセンスを加える事で、能楽が持つ魅力がさらに輝き、「水の輪」をご覧になった皆様に、日本を代表する伝統芸能の力によって、より心の奥深くまで「水を大切にしたい気持ち」を感じて頂けるのではないかと考える。

■次代を担う子ども達の自発的参加により楽しく「水を大切にしたい気持ち」を継承

新作能「水の輪」は、「こどもたちと作る能」である。平成21年の初演時には、広く一般からの応募による子ども達約30名と1ヶ月以上かけて、大阪の歴史を学び、船に乗って大阪の川を遊覧し、水の大切さを考え「水の輪」を一緒に作り上げた。子ども達は楽しく環境問題を学びながら自分たちの衣装や小道具をワークショップにより手作りし、能の稽古を重ね出演した。「水の輪」の公演によって、次代を担う子ども達に日本の伝統文化を伝えると同時に、私達の祖先が大切にしてきた「水を大切にしたい気持ち」を子ども達に伝え、水と共生してきた「日本人としての誇り」の伝統も継承する事ができればと考える。

■日本を代表する古典芸能である能楽に外国人が参加し「水を大切にしたい気持ち」を文化を通して共有

水の浄化をテーマに環境問題を考える新作能「水の輪」には、汚れてしまった川の水をきれいに甦らすために子ども達が水鳥役になって登場する。2010年には、子ども達に代わって外国人が能について学び、「水を大切にしたい気持ち」を共有し、その気持ちを母国語（英、仏、韓、中、加）で表現し出演した。2011、12年には、ブルガリア共和国での公演で、約30名の日本語を学ぶブルガリア人の子ども達が「大阪ことば」で出演し、文化により日本との深い絆を構築した。水鳥役を外国人が演じることで、700年の能楽の伝統は守りつつも能楽を外国人にとって馴染みやすく興味深く理解しやすい演劇へと劇的に変化させることができる。「水の輪」を世界各国で上演することで、「水を大切にしたい気持ち」を世界で共有し国際親善につとめ、世界共通の大切な「水」を世界で守っていければと願っている。

■「水を大切にしたい気持ち」により地域間に深い絆を構築する。

新作能「水の輪」は、全国各地の水辺で再演を繰り返す事で、その土地の子ども達と一緒に、その土地の歴史や史実を盛り込みながら制作し、子ども達が故郷への愛情をより深く感じる事ができるよう制作している。平成23年には、淀川の源流である琵琶湖の近江八幡の子ども達と一緒に、滋賀県の伝統工芸品である八幡瓦を使用し、舞台美術や衣装などを制作し、子ども

達が「八幡ことば」で登場した。ブルガリアではブルガリアの子ども達が日本の伝統的な絞り染めの技法で現地の文化を取り入れながら衣装を作り、「大阪ことば」で出演した。水鳥達が国境を自由に越えて旅をするように、新作能「水の輪」で世界の子ども達の心を一つにつなぎ、「水を大切にする気持ち」を次世代に継承していければと切望している。

4. 新作能「水の輪」の歩み

■2009年10月12日

於：天満橋「八軒家浜・特設船上ステージ」

主催：山本能楽堂

助成：大阪観光コンベンション協会

・大阪で52日間開催された「水都大阪2009」の
閉幕を彩るイベントとして制作・初演

・小学生27名が水鳥になって出演



■2009年12月26日

於：大阪市中心公会堂

主催：文化庁、「文化芸能で「明るく」「楽しく」「わく
わく」する大阪に！」実行委員会

大阪商工会議所

・映像作家集団「新視覚」による琵琶湖から大阪
までの川の流れの映像を投影し開催

・小学生23人が水鳥になって出演



■2010年10月3日

於：天満橋「八軒家浜リバービューウォーク」(雨天
のため山本能楽堂に変更)

主催：山本能楽堂 「リバリバ大阪2011」助成事業

・外国人が水鳥になって英語・中国語・フランス語・
韓国語で出演し国際観光都市大阪をアピール。



■2011年8月28日

於：大阪城西の丸庭園

主催：山本能楽堂 文化庁平成23年度トップレベルの舞台芸術創造事業助成公演

・「大阪城 城灯りの景」にて大阪城を背景に上演



■2011年9月18日

於：近江八幡市 八幡堀特設水上ステージ

主催：山本能楽堂 文化庁平成23年度トップレベルの舞台芸術創造事業助成公演

後援：近江八幡市、近江八幡観光物産協会、大阪市、大阪商工会議所

・淀川の源流である琵琶湖の八幡堀で近江八幡の子どもたち17人と一緒に上演



■2011年11月18日

於：ブルガリア共和国ソフィア市ソフィア劇場

主催：公益財団法人 山本能楽堂

助成：平成23年度 文化庁・国際芸術交流支援事業（海外公演）

後援：外務省・大阪府・大阪市・大阪商工会議所、水都大阪推進委員会・（財）大阪21世紀協会・ブルガリアの小学生26人が「大阪ことば」で出演。日本の「絞り染め」の技法で自分たちの衣装を制作。





■2012年8月16日

於：ブルガリア共和国ソフィア市アートセンター

主催：公益財団法人 山本能楽堂

助成：平成24年度 文化庁・国際芸術交流支援事業
(海外公演)

後援：外務省・大阪府・大阪市・大阪商工会議所、
水都大阪推進委員会・(財)大阪21世紀協会
・ブルガリア共和国で環境問題を考える活動を実施
するアートセンターで上演。



■2013年10月16日

於：中之島GATE (大阪市)

主催：公益財団法人 山本能楽堂

助成：文化庁 平成25年度優れた劇場・音楽堂
からの発信事業

後援：水都大阪パートナーズ、大阪府カンヴァス推進
事業

・大阪の新しい水の拠点として開発がすすむ「中之
島GATE」にて新作能「水の輪」を上演



5. 新作能「水の輪」のこれから —「ひさしき水こそ、めでたけれ」

新作能「水の輪」は、水の都・大阪の再生を象徴する「水都大阪2009」の最終日を彩る公演として制作・初演した。当日は平松邦夫大阪市長も子ども達と一緒に水鳥に扮して登場し、約3,000人の観衆に「水の大切さ」を喚起することができた。その後、これまでに11回、各地で再演を繰り返しているが、昨今は地球規模での気候変動による災害が多発し、「水の輪」を初演した2009年当時より、水循環を取り巻く環境は悪化し、今こそ早急に、地球規模での水循環の健全化のため「水を大切にすること」を世界で共有する必要性を感じている。私達は人類共有の大切な環境問題である「水の大切さ」をテーマに、「子ども達が水を甦らせる」こと

で、「水を大切にしたい気持ち」を未来へと繋いでいく事ができるのではないかと願い、継続して活動をおこなっている。また、全国各地、世界各国で現地の土地の子ども達が水鳥になって出演することで、日本を代表する古典芸能である能楽を通して、古来から水と共生し、水を介した独自の美しい日本文化を育んできた「日本人の心」を伝えていきたい。そして「水を大切にしたい気持ち」で世界を一つに繋げ、次世代に対して水に対する敬意と親愛を伝えると同時に、日本発の心の通い合う国際親善につなげていくことができればと切望している。

水鳥は人がつくった県境や国境を自由に越え、世界中を旅する。水もどこかに留まるのではなく、たえず世界を循環している。新作能「水の輪」で世界を一つにつなげることができたら望外の喜びです。

<新作能「水の輪」の物語>

昔々、京都を都（みやこ）、大阪を難波（なにわ）と呼んでいた頃のお話です。都に住む男の人（ワキ）が難波に向けて出発します。途中、山崎のあたりまで来ると、淀川に女の人（前シテ）の漕ぐ一隻の舟が現れます。男の人は自分が難波を目指していることを伝えて、乗せてもらうことにします。

女の人は、昔の淀川の美しい様子を話しますが、難波の近くまで来ると様子がみるみる変わり、水が汚れてしまったことを悲しみ、このような水辺にいたことができなくなったと言って、姿を消してしまいます。

男の人が一人で佇んでいると、そこに一羽の水鳥（アイ）が飛んで来て今の出来事を話します。水鳥はその女の人は昔淀川に住んでいた水神だろうといい、水が汚れてしまったのでいなくなってしまったことを話し、もう一度水神に帰ってきてもらうために、仲間を集め、掃除を始めます。（水鳥たちの舞・小学生）

やがて、綺麗になった川に龍神（ツレ）が現れ、きれいな流れの道を作り、波を沈めて待っていると、水神（後シテ）も現れて、みんなの努力で水が綺麗に蘇ったことを喜びます。さらに薬の精である狸々（ツレ）も現れて、最後は皆で水のありがたさと、難波（大阪）の栄えている様子を寿ぐのです。

*物語の中に出てくる地名を変えることで、世界中のあらゆる地域のお話として上演することが可能です。

御協賛（制作・初演時）

★本事業は、大阪市、大阪商工会議所、大阪観光コンベンション協会による「元 気な大阪へ行こう！元気な大阪で遊ぼう！アイデアプラン」の認定事業です。

上野製薬株式会社
オオサカ・ユニーク株式会社
関西電力株式会社
株式会社 クボタ
京阪電気鉄道株式会社
株式会社サクラクレパス
サントリーホールディングス株式会社
株式会社AFT企画
ダイキン工業株式会社
大幸薬品株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社タブチ
株式会社帝国ホテル
社団法人 中山報恩会
西日本電信電話株式会社
ネクストウェア株式会社
(50音順)

御協力

財団法人大阪21世紀協会
NPO大阪水上安全協会
水都大阪2009実行委員会

★新作能「水の輪」今後の予定

平成27年 7月 島根県隠岐の島
平成27年 8月 兵庫県小豆島
平成27年10月 水都大阪2015
平成27年12月 鹿児島県屋久島

公益財団法人 山本能楽堂